

提出日： 2002 年 6 月 5 日

ゼロ・エミッション

課題

(ゼロ・エミッションを受講するにあたって)

物質地球科学科地学系

3 年次 003219 B

小嶋 純史

ゼロ・エミッションを受講するにあたって

今回、5月22日に行なわれた「キャンパス・クリーンアップ」に参加出来なかったので、自分でテーマを決めて文章を書いてみました。本文を書くにあたって、本来の課題が感想文であったので、同程度のものの内容としてゼロ・エミッション（以下、本講義）を受講するにあたっての意気込みや取り組み方などを書いてみようと思いました。

まず、本講義を受けることにした動機をお話したいと思います。他の学生がどうであるかは分かりませんが、自分は只単位を取るためだけに本講義を受講したのではないということを言いたいです。自己紹介ゲームの時に話したと思いますが、自分は去年の「大学間共同授業」を受講してから環境問題に大変関心を持ってきました。大学間共同授業では“循環・共生型社会をめざして”という題の合宿型授業で、大分県の研修施設に宿泊してきました。4泊5日間、テーマに沿ったたくさんの講義に触れ、半ば監禁状態で学習してきました。そこでは、環境問題に取り組み、現在の危機的状況を少しでも改善するには、まず私達がそれらについて正しい知識を持ち、行動に移す勇気を持たなければならないことを学びました。そしてそれは簡単なことではない反面、何かきっかけをつかめれば意外と容易であることを感じました。また、その講義では合宿中に十分に意見を言えなかったという悔いがあるので、本講義にぶつけたいというのが受講することにした動機です。

本講義の取り組み方としては、作業を1つ1つ大切にしていこうと思っています。今まで受けた講義のなかに「環境の保全」「ランドスケープ論」というのがありました。この2つの講義はフィールドワークを基本とし、グループ発表、ワークショップ、グループディスカッションを行なってきましたが、全体討議やまとめに入ると、いつも必ず巨視的な考え方でまとまってしまって実際のローカルな部分が忘れ去られている感じがしました。それは1つの事象を地球レベルに発展させたわけではなく、只単にフィールドで行なってきた問題発見の作業をわざとしまいで込んでいる感じでした。やはりミクロな視野からマクロな視野へ移行し、最終的にはまたミクロな視野に発展移行しなければならないと思います。同時に、“それでは今、私達に何が出来るのか”ということを考えるまでのプロセスも大事にしたいと自分は思います。大学間共同授業にしても、去年あれだけ話し合ったにもかかわらず変化していない人が多い事を考えれば、日数の制限もありましたが、議論が足りなかったと考えるほかありません。今思うと、自分もその1人ですが、フィールド調査にもとづく経験的なレイヤーを持った人が少なかったことで討議は遠くの国の話をしているかのようでした。やはり事件は現場で起きていて、会議室で起きているのではないので、フィールドワーク的な作業を1つ1つ大切にしていかなければ問題は解決しないと自分は考えました。

最後に、今回のキャンパス・クリーンアップに参加できなかった事を非常に残念に思います。述べたように、1つ1つの作業が問題を提議し、考えさせてくれるものです。今回は尿管結石という病気でしたが、健康と環境問題も密接な関係にあることも述べたいです。健康でなければ環境に対して働きかけができず、環境は悪化し健康に害を及ぼすといった悪循環を形成してしまうことを体で感じてしまいました。